

届けたいのは、患者さんのための「チーム医療」。 糖尿病ケアチームによる「DIST」始動。

「糖尿病は、小児に多い1型、成人に多い2型がありますが、患者数は年々増加しており、当院でも基礎疾患として糖尿病を有する患者さんは男女ともに増えているのが実状です」と話す松岡孝医師。糖尿病は初期の場合、自覚症状がほとんどないケースが多いが、症状が進むと全身の血管が傷み、さまざまな合併症を引き起こす要因となる。

「おもな合併症としては腎臓や眼、心臓(狭心症・心筋梗塞)、脳(脳梗塞・脳出血)などがあります。そのほかにも認知症や歯周病、骨粗鬆症などを誘因することもありますが、これらの合併症を極力併発しないよう、また併発しても軽症ですむよう、早期に適切な治療を行なうことが大切です。きちんと治療を続けられれば、合併症は怖くありません」と松岡医師は指摘する。

「調整役」を担っています。薬剤師としてチームを支える岡田憲人さんは、「なぜその薬を処方するのか。松岡先生はその意図を明確に伝えてくれますから私も患者さんへ説得力を持って説明することができます。薬を飲み忘れる患者さんも少なくないので服用を継続できるように患者さんの話をしっかりと聞いて、向き合うよう努めています」と話す。食事面から患者を支える管理栄養士の堀川三由紀さんは、「大切なのは、楽しみながら続けられる食事。食事指導は、患者さん一人ひとりに合ったオーダーメイド。年齢、生活環境を考慮し、その人にとって何が適切か、食べる愉しみを残しつつ、続けられる食生活を一緒に考えています」と語る。



松岡医師(前列左から2番目)と糖尿病ケアチームのメンバー

ではより専門性の高い治療を提供するため、二〇二三年四月、多職種による糖尿病ケアチーム「DIST」を立ち上げた。医師、看護師、管理栄養士、薬剤師で構成された「DIST」。メンバーのひとり、日本看護協会糖尿病看護認定看護師の平田安由美さんは「DIST」の活動をこう説明する。「週一回のカンファレンスでは、患者さんの病態や血糖状態を共有し、患者さんにとって適切な治療をメンバーと討議しています。私自身は専門知識と技術を生かして医師と患者さんの間に立って双方を支援し、なおかつ各メンバーがスムーズに活動できるようチーム内の

最後の松岡医師は、「私たちが届けたいのは『患者さんのためのいい医療』。そのためにはメンバー全員が自由に意見を交わし、互いに磨きをかけてスキルアップできる環境が必要です。今回活動を始めた『DIST』は院内では縁の下の力持ち的な存在。本当の意味でのチーム医療を『DIST』で実現したい」と想いを語る。地域においても岡山市中区・東区・北区の一部の糖尿病中核病院として「DIST」の今後の活動が期待されている。

お問合せ 岡山旭東病院
086-276-3231

※DIST: Diabetic Inpatient Support Team。全国に先駆けて、2015年から倉敷中央病院で松岡医師が開始した全入院患者の血糖管理を行なう糖尿病のチーム医療。

NEWS

糖尿病教室 第2・4木曜 13:00~14:00 / 院内2階会議室「あさがお」

糖尿病への理解を深め、健康的な生活を送りませんか？ それぞれの専門分野について、わかりやすくお話し、個別の相談や質問も受け付けています。ご参加をお待ちしています。

参加無料



お申し込みはお電話か
オンラインフォームから

086-276-3231
担当：企画広報室

オンライン
フォーム▶



動画配信のご案内

当院のYouTubeチャンネルにて、転倒予防を中心に健康情報を配信しています。運動方法や自宅の環境整備についてなど、愉しく学べる動画を毎月更新しているので、ぜひチャンネル登録してみてください。

岡山旭東病院
YouTube チャンネル▶



※3か月1クールとし、同じ内容を年に3回開催します。次は9・10・11月に開催します。

5/9 【糖尿病とは？/食事について①】
医師・管理栄養士

5/23 【フィットケア/運動について】
看護師・理学療法士

6/13 【糖尿病の合併症/食事について②】
医師・管理栄養士

6/27 【低血糖、シックデイ/お薬について】
看護師・薬剤師

7/11 【糖尿病の治療/食事について③】
医師・管理栄養士

7/25 【日常管理/検査について】
看護師・臨床検査技師

No.129

おとな、暮らし、ときどきプレミアム

2024

5-6月号

850円

(本体773円)

オセラ

ゆるり、 古民家

ランチ、カフェ、手しごと……

まちみち案内
兵庫県・加西市

自由・気ままに
キャンピングカーのすすめ

大人のためのご馳走。

とっておきを探しに。/ Doctor's Eye